

本林 隆 准教授

研究概要

現在、地球上では急速な生物多様性の低下が進行しており、その保全が重要な社会的課題となっている。農業と生物多様性の関係に関しては二つの観点が考えられる。一方は、生物多様性が農業に与える恩恵(機能)についてである。多様な生物が存在することにより、土壌・水の保全、気候緩和、病害虫に対する自然制御(天敵など)など様々な生態サービスが農業に対して提供されており、その重要性が認識されてきている。もう一つは、農業が生物多様性に及ぼす影響の問題である。農耕地の拡大による生息地の破壊、農業の近代化に伴う化学資材の大量投入による環境の汚染など農業による生物多様性に対する様々な悪影響が指摘されているが、科学的な評価が行われている例は少ない。わが国の水田は、我々の主食である米を生産する場であると共に、多様な生物の生息場所となってきた。しかし、近年、水田に生息する生物の多様性の低下が指摘されている。特に、最近、農家で広く使用されている育苗箱処理剤の水生昆虫に対する影響が懸念されている。そこで、水生昆虫に対する育苗箱処理剤の影響を評価するとともに、その影響を軽減するための方策(栽培技術の改善、天敵の利用..)について検討する。

主要研究テーマ

1. 水稲栽培現場で広く普及している育苗箱処理剤の生態影響評価
2. 耕種的防除法による殺虫剤使用の軽減
3. 土着天敵の涵養による害虫の自然制御機能の促進

